

「我ママ」と「コロナ」

前回の園長だよりより下記の部分に関しまして、たくさんの方からコメントいただきました。ありがとうございます。

子どもを「子供扱い」せず、一人の人間として対峙する瞬間があることが、これから先の読めない未来を生き抜いていく「子育ての鍵」のように思う

これは、豪在住中に強く感じた「インターナショナルスタンダード」で、大人も子供も対等が当たり前でした。私にとりましては、異なる教育文化の衝撃でした。また、家族、友人にオーストラリア、カナダ、アメリカ、英国、ベトナム、インドネシアバリ在住者がおりますので、ウェブ家族会、友人とのウェブ会でも「子ども扱い」について、日本での教育に身につまされることがございます。もちろん、日本人の協調性や道徳観に身につまされるという言葉には、中にいると見えなくなりがちなポイントだとも思います。

新渡戸文化子ども園でハグが大事だと言い続けて早9年。今はハグが出来ずに大変なストレスですが、ハグしたい愛おしい年長チーム担任3名の我がママ自慢のご紹介です。

<福田先生>

- ・お店で食べた料理の味を覚えて、家で同じ味を再現できる。
- ・よく笑い、よくしゃべり、一つ一つのリアクションが大きい。家の中をいつも賑やかで明るくしてくれる存在。
- ・何事も一生懸命で常に向上心を持つ。特にずっと続けている水泳はマスターズ大会にも参加し、その都度泳ぎを振り返り課題を見つける。
- ・躰には厳しく、礼儀作法など人としてどうあるべきかを伝え続ける。
- ・どんな時も無償の愛で伝え、無償の愛で受け止める。

<西村先生>

- ① 介護士として働きながら、自身の親の介護も両立。自宅、職場、実家を行き来する日々。
- ② 手のかかる飼犬2匹を前に、「何年経っても子育てが終わらない…」と嘆きながら格闘。
- ③ 食事の際、形が崩れたものなど見た目が悪いものや昨日の残り物は全て母自身にまわし、綺麗で新しいものを常に父や子どもへ。とにかく家族優先。

<小森先生>

- ① ポジティブ いつでも前向きに考え、頑張る母
- ② 健康に気をつけ、55歳からジムに通う母
- ③ 家族のために 介護の必要な家族のため仕事と介護を両立する母
- ④ いつも笑顔 常に笑顔で太陽みたいな母

合気道の段保持者福田先生、ダンスがプロ並みの西村先生、ダンス造りDIYが得意な小森先生。この3人のチーム担任に見守られている年長学年のお子様方は、先生方の良いところと、得意なことをスポンジのように吸収していくでしょう。もちろん、幼稚園教諭、保育者としてのプロの視点での教育もご面談でお伝えした通りでございます。

繰り返しになりますが、子どもを「子供扱い」せず、一人の人間として対峙する瞬間があることが、これから先の読めない未来を生き抜いていく「子育ての鍵」のように思います。

コロナ。お子様を子ども扱いせずに「一人の人間として」どう対処するかを、大人の私たちが伝えていきましょう。

私たち大人には、子供たちがまだ持っていない伝える言葉がありますから。